



無理矢理キス

強制種付け

ドク

ユリ

騎乗位中出し

か、感じてるわけないでしょう！  
でも…そんなに奥突かれたらっ…♡

胸の大きいドM格闘娘  
ティファちゃんに  
無理矢理中出しっ

パイズリぶっかけ&精飲

「くぅ〜〜〜ティファちゃんとセックスしたい！」

ティファちゃんとはとある酒場の女主人だ。  
とにかくおっぱいがでかくてイイカラダをしている。  
しかも格闘技をやっていて並の男では歯が立たないらしい…。

しかしっ！俺はもう我慢できない！  
意を決した俺は彼女にこう持ちかけた。

「マリンちゃんは預かった。

無事に返して欲しければ俺の言うことを聞けっ！」  
(マリンちゃんとはティファちゃんが普段面倒を見ている子で  
ティファちゃんの子供ではない)

「なっ…！何が目的なの……っ！？」

「そんなのもちろん、  
ティファちゃんのカラダに決まってるだろっ！！」

「ほらほら  
まずはしゃぶってもらおうか」

「……誰が「こんなものを……」

「うーん？まだ自分の立場が  
わかってないみたいだね  
あの子がどうなってもいいのかな？」

ふたふた

「う……」

「これをしたら本当に  
あの子を返してくれるんでしょ？」

「ああ…俺を満足させてくれれば  
すぐにでも返すよ」





「うっ…  
ティファちゃんの口の中あったけー…」

「むぐっ…あむっ…」  
(なんで私がこんな奴の…  
でもあの子の為…  
さっさと終わらせなきゃ)

ほしっ



「ほらほら  
そんなんじゃないつまでたつても終わらないよ  
ちゃんと舌で舐めたり吸ったりして「ごらん」  
「んぐっ……ちゅっ……んるんる」  
(勝手なことばかり言ってる……)  
後で覚えておきなさいよ)

ちゅるる



ガッ ガッ

ぢゅっ  
ぢゅぼっ

「うーん…ティファちゃんあんまり上手くないんだね  
こんな体してるのに」「うううう経験があまりないのかな？  
ほらこうやって喉の奥まで咥えてチンポ吸わないと」  
「んぐんぐん…んぐんぐん…んぐんぐん…んぐんぐん…んぐんぐん…  
ぢゅぼっぢゅぼっぢゅぼっぢゅぼっぢゅぼっぢゅぼっぢゅぼっ  
…げほげほ」



「ああごめんごめん苦しかった？  
やっぱり慣れてないみたいだね。  
じゃあ口の中でべろべろしながら手で「すすすして」「らん

「んう……べろべろ……んちゅっ……」  
（こんなやつと言いなりになるしかないなんて……  
でも言われた通りにしておいた方が  
早く終わりそう……）

「んちゅっ…ちゅちゅ…ちゅるるるるるるるるるる」  
「うっ…でいいのかな…」

「うおっ！やべえ…ティファちゃんの手ロキ高速すぎ…  
口まんこもすげえ吸いつきだあ…！」

（良いみたい…このまま続ければ…）  
「ちゅっ…ちゅるちゅる…あむっれるれるるる」

「うっ…ティファちゃん才能ありすぎっ！  
気持ち良すぎる…！」

ぢゅぢゅー

くっ  
くっくっ





「うぐっ……もう出るっ……！  
しっかり喉の奥で受け止めるよ！」

「んちゅん……  
んんんんんんんん……」  
（うわ……すっごく熱くて無くなっちゃうの）

びゅるびゅる

ふんふん



「はあっ……はあっ……」

「んぐっ……おえ……くさい……」  
（すっ「のニオイ……」）

「あー気持よかったよティンママちゃん」

「……これで満足したでしよ……」

「さーそれはどうかな」

はあ、  
はあ、

ぽた

ぽた

ぽた

ぽた

「ほら、今度はそのでっかい胸で俺のチンコ挟んでよ」

「なっ…挟むって…」

「もしかしてパイズリもしたことないの？」

「チンコ挟むためにあるような胸なのにもちたくない」

「J'adore...」

「おお、すげー乳圧」

「やっぱティファちゃんのおっぱい半端ないね」

ずん

「ほら、胸を両手でエロくおかわり……」

「ん……うん、うん……」  
(いんなのが気持ちいいな……)

「うんうん」

「良い感じだよティファちゃん」

(なんか、ちんちんと固くなる……)

チン

チン



「は、早く出して終わらせよう...」  
（どうせ早く終わるし...）  
おっぱい熱いよ...」

「じゃあエダレ垂らして  
ティファちゃんのエダレでびちゃびちゃにして  
もっと気持ちよくなるよ」

あー  
ふふふ  
ふふふ



「嬉しい...  
じゅわんじゅわん...わ」

「おっおっおっ...  
ティンパチをささるって俺のチンポ  
おっおっおっおっおっ」



「アッ！ 何なのさアッ！ 何ッ！」

「そうだよ、ヨダレでびちゃびちゃになった  
おっぱいで俺のチントをアッ！」

「アッ！ やればいいんでしょッ！  
(アッ！ ……ホントに後で見えてなからよッ！ ……)



「きゅんきゅん……きゅん……」

「あーやめろ、腰持ちしろよー」

「あー、きゅんきゅん動かーり」

(きゅん……きゅん……きゅん……きゅん……きゅん……)



きゅん

きゅん  
きゅん

きゅん  
きゅん

きゅん  
きゅん



「あーいいいいいよー  
ティファちゃんのパイズリほんとすげえわ  
ほら、ちゃんとぎゅつと挟んで  
俺のチンコを射精させて」らん

「んっんっ...ざっざっ...」  
(すっぴん熱い...)  
それに先っぽから何か出てきたよ

たっ  
ざっ  
ざっ  
たっ  
ざっ  
ざっ

「ほら、先っぽ舐めてよ」

「なに…嫌よ、こんなさ…」

「あれっ…まだそっくらっくらして」

「うっ…な、舐めればいらんわ…」





「あーヤバイヤバイ！  
パイズリされながら先っぽ舐められるの  
気持ち良すぎるー！」

「...ロロ...」

「あーやばいすげえよティファちゃんー！」

た  
ろ  
ろ

ぷ  
ちゅ

ろ  
ろ

た  
ろ  
ろ



「.....」

「.....」

ぽろぽろ

ぽろぽろ

ぽろぽろ

ぽろぽろ

ぽろぽろ

「んう… ぶはっ… すい〜く濃〜…」  
(口の中に入れて少し飲んじゃったかも…最悪…)

「はあはあ…すげー良かったよティンママちゃん」

ドロ

ぶは、  
は、

は、  
ま、

グッ…

「…良かったわね…もう満足したぞしほ…」

「それはティファちゃん次第かな」

「えっ…まだするの…?」

「はあっ……はあっ……もうたまんねえぜ……  
ティンママちゃんのおまんこはめっちゃめっちゃめっちゃ……」

「まじ……めっちゃ……嫌だ……離して……」

「何言ってるの……俺が満足しないと終わらないんだよ」

「そんな……お願いそれだけは止めて……  
私好きな人が……」

「っ  
っ  
っ」



「この世に……こんなやういカヲタ……  
ティンマちゃんが悪いんだよ……」

「イヤあ！入ねちや駄目……！」

「へへへ……もう入っちゃまったよ」

「んん……んん……」

チンマッ



「んん…絶対許さなう…」

「へへ、そんな「ム」言いつて「ム」マサ、さあ、さあ、  
まあ「濡れ」てるじゃなう」

「もしかして俺のチンポ舐めて興奮しちゃった？」

「そんなわけないぞ…早く抜くぞ、早く抜くぞ、早く抜くぞ…」  
「の変態…」

「んんん」



「はあはあ、駄目ってティンママちゃん  
おっきから気持ちよおんなんな声が田ちゃんよ。」

「んんん」  
(声、我慢しながら……)

「お、シヤツ噛んで声出さないつもり？  
そうだよねー感じて声出しちゃったら彼氏に申し訳ないもんね」

(勝手に「んんん」はならぬ……悶ていぬはなはな……ど……ん……)



「ほら、ここまで我慢できるかな？  
ティファちゃんの胸の中犯しまくってあげるよ...」

「うっ...うっ...」  
(絶対黙じたりなんかしない...)

おっ

「うっ...うっ...」

「うっ...うっ...」  
(...胸の中...)

ズ

ズ



「んあっ！ダメっ！そこだめえ！  
あんっ！あんっ！」

はあ♡

「うおっ、ティファちゃんも感じてくれてるみたいだね！  
久しぶりなんだから気持ちよくなってもしようがないよ！」

「あんっ！そんないど…言わないで…んんっ！あっ！♡」

ずちゅ

ずちゅ



「あっ！あっ！あっ！だめ、あんっ♡だめだめえええ！」  
びゅん  
びゅん

「...ウツウツウツウツウツウツウツ」

「あーやばいーティンママさん♡」  
「無理やり中出しだー！」  
「イヤッー！そんなのだめえ 抜いてえー！」  
んん

ミ  
タ  
ス  
ク

きゅん





「あっあっ！だめ、あんっ！いやあああ」

「……」

「……」

「……」

あーっ  
うっ

ん

ん

どろどろ



「ああ…んんっ はあっ 丑い…  
中はダメって言ったのに…」

ぞくぞく♡  
ぞく♡

「あーすげえ出ちやった  
ティファちゃんのカメラやっぴり最高だね」

「んん…おんん…」

どいっ  
どいっ



「ああ…んんっ はあっ すっぴんぽんぽんっ…  
ムクムクっしてると…凄いにオオイ…」

「あーすげえ出ちやった  
テイファちゃんのカメラだやっぴり最高だね」

「ムクムクムクムク…」

ぞくぞく

びゅん



「あーすげえ、いい感じー」

「イヤッ何するのよー」

「もっと尻を高く上げてー」

「んうっーこんな格好イヤあー入れちゃ駄目」

「あーすげえ、あんな綺麗な尻見たことないよー」

むきゅっ

んぐんぐん



「おら、奥まで犯しまくってやるぜー」

「うああっ！だめっ！奥だめえ！」

「んんっだめっダメえっー」  
（一番奥に当たってる…すすいすい）

じゅわん  
じゅわん  
じゅわん

じゅわん

びん

ん



「うわすっげえ 俺のチンコティファちゃんの  
本気汁でグチヨグチヨだあ  
俺のチンコを気に入ってくれたみたいだね」

「ぞ、そんなこと…私、感じてなんか…」

はあ

「ええいしまるそんな事言いつてられるかな  
たまんぬえせ 突きまくってやれー」

「うっ そんなのたのめ…」

ん

ぬ  
う  
う  
う



「あーっあーっあーっ」

「あああっ！だっめっ  
あんっ あんっ！」

「うう…なんで…私…んなに…  
無理矢理犯されてるの!…!」



「あーすげえっ！感じまわってるじゃねえか！  
激しくされるのが好きなんだねっ！」

「あんっ あんっ ちっ ちがう…  
私感じてなんか…ああんっ！」

「…うんちんは…おっぱい…  
…おっぱい…おっぱい…おっぱい…」

はっはっはっ

はっはっはっ  
はっはっはっ

はっはっはっ

はっはっはっ

はっはっはっ





「あああ！いやあ だめええ！

んっ！んっ！うあつ！あんっ あんっ！

(駄目なのに！こんな奴に犯されてるのに！…)

声我慢出来ないよお…！

「あんっ♥あんっ♥だめっ あつ だ あつ♥」

はっはっ

「はっはっ た た まんねえっ っっっ っっっ っっっ」

「はあっ♥ だめだめえ あつあつあつあつあつ♥」

はっはっ

はっはっ

はっはっ

はっはっ

はっはっ



「ぐあぁ ティンアちゃんに強制種付けだった！」

ズビュッ  
ズビュッ

ズビュッ

「いやあぁっ だめっ  
私…イっちゃった…  
だめっ だめっ  
あぁあぁっ」

ドクン  
ズビュッ

ズビュッ





「ほら、今度はティファアちゃんが上で動く番だよ」

「んん…いやあ…これ深い…」

「あー」

「おっばい揉み放題だぜ」

「あー 良い眺め おっばい揉み放題だぜ」

「あっ 駄目 そんなに強く握まないで…」



「ほら、こっちはさっさと服を着てなごら  
動いたら気持ち悪いから」

「んんんん……  
いやっ、これだめえ……  
う、動かないで……突き上げじゃダメっ……」

カ  
ン  
ン  
ン  
ン

ズ  
ン

ズ  
ン



「ほら、こっちはさっさと黒い汁をながさる  
動いたら気持ち悪いから」

「んんんん……  
いやっ、これだめえ……  
う、動かないで……突き上げじゃダメっ……」

カ  
ン  
ン  
ン  
ン

フ  
ィ  
ッ  
ッ

ズ  
ン

ズ  
ン



「あーたまんねえ

そろそろ乳首も苛めてやるわ」

はあ、

もむもむ

ゴキウ

カクミ

「んはあっ♡

そっ「そんならっママないで……」

ギ

「あーすっげえ愛液でてきた

ティンアちゃんおっぱいも弱いんだね」



「あーたまんねえ

そろそろ乳首も苛めてやるわ」

はあ、

もむもむ

ゴキウ

ゴキウ

「んはあっ♡

そっ「そんならっつままないで……」

ギ

「あーすっげえ愛液でてきた

ティンアちゃんおっぱいも弱いんだね」





「いやあだめえーこんなのおなごへんぢやあはるしやあぢやあ…」

「そんな」  
「うんうんして自分で腰動かしてるといふなぞ」

はあ、  
はあ

うんうん

「そんな私…動がしてるといふ…」

「ほ、自分で腰動かしてるといふぢやあなぞー  
「うんうん、自分で腰動かしてるといふぢやあなぞー」

「いやあだめえーこんなのおなごへんぢやあはるしやあ…」

「そんな「アム」して自分で腰動かしてるとさなろ」

はぁっ  
はぁっ

「うん」

「そんな私…動がしてると…」

「ほ、自分で腰動かしてると持ちよくなるとさなろ」



「んあっ♡あっ あっ あっ♡  
だめなのにい なんでもえ あんっ あんっ♡  
（腰とまらないよお…奥す♡いい♡）」

「うああっ…すっ すげえ腰使い！  
締め付けながら くっくっ 子宮が吸い付いてくるっ…  
ティンアちゃんのデカパイ揺れまくりでエロ過ぎっ…！」

ガレ  
グッ

ずっ  
ずっ  
ずっ  
ずっ

「んあっ♡あっ あっ あっ♡  
だめなのにい なんでもえ あんっ あんっ♡  
（腰とまらないよお…奥すこいい♡）」

「うああっ…すっ すげえ腰使い！  
締め付けながら くっくっ 子宮が吸い付いてくるっ…  
ティンアちゃんのデカパイ揺れまくりでエロ過ぎっ…！」

ガレ  
グッ

ブミ  
グミ

ずっ  
ずっ  
ずっ  
ずっ













「いあああ... 搾り取られる...」

「あああああ... だ... 搾り取られる...」

はぁっ♡ はぁっ♡

びゅる

ぞくぞく

「はぁっ♡ はぁっ♡... 動かし物...」

「はぁっ♡♡ はぁっ♡♡... まだほめる... 熱いのがたかくち...」

ズ、

びゅる

びゅる

ズ、

「あああああ……搾り取られる……」

「あああああ……♡♡♡で……淫靡な……乳……」

はぁっ♡  
はぁっ♡

ぞくぞくぞく

びびる

びびっ

びびっ

ズ、

ズ、

「はぁっ♡はぁっ♡……もう淫たから……  
動かない……」

「はぁっ♡♡はぁっ♡♡……だうて止まらない……」  
「まだ淫しい……熱いのがたく……」



「あ、すっげえ気持ちよかった…  
ティンファちゃん中出しされたかったの？」

は、は  
あ、あ

アッ♡

どしどし

「ち、ちがっ…はあ♡はあ♡  
そんなわけ…ない…」  
(熱いのがお腹いっぱい溜まっている…凄いよお♡)

「ティンファちゃんはセックスの才能も凄いねえ、また騎乗位しようね」







「んっっ！  
それは嫌っ！」

「はあっ はあっ  
なんだよ  
まんこは良くて  
キスは嫌なの？」

「うっ……」  
（キスは絶対に嫌……！）

「あっ、口開けてっ  
お出っせ」

「……」  
（口開けないようにしないと  
無理矢理キスされる……）



「そりゃっ そりゃっ  
奥付きまくっても  
我慢してられるかな」

「んんっ ふっっ  
ふっっ んんっ……」

(ダメ 声出したら  
口開けたらダメ……)

「おんおんおんおんおん」

「んんんん！」  
(弱いとこばかり  
攻めてくる……♡  
こんなの我慢なんて  
出来ないよお……)



「はあっ♡ ああんっ♡  
だめんっ♡」

「こんなの…無理っ♡」

「そりゃそりゃそりゃー！」



いぢゃっ

「へっ やっぱりカラダは  
正直だねえ  
いただきまーす」

「んっ！んちゅ  
いや…ちゆるちゆる」  
「キスされた…  
こんな奴に…！」



ちゅー

んんん

ちゅー

「ちゅーれろれろれろ  
あーティファちゃんの  
唾液も唇も美味しいよ」  
「んんんんんんんん いあう  
んちゅー」  
「こんな奴とキスなんて…  
最悪……！」

んぶはっ

「ほら ティファちゃんも  
舌出してこらん  
キスしながら奥突いてあげるよ」

「んぶはっ い…いやよ…  
そんな…んぶっ」



いっ  
いっ  
いっ  
いっ  
いっ  
いっ

ちゅ  
るっ

ん  
ちゅ

「んんっ んちゅ あむっ  
ちゅる じゅる」  
(いや だめえ  
キスしながら  
そんなに動かないでえ…♡)



「ちゅーちゅるちゅる  
ほらティファちゃんも  
苦動かしてっ」

「んんっーあむっちゅっ」  
（あぁっキスされながら  
そんなに奥突かれたら…  
頭真っ白になっちやうよぉ♡）  
「ちゅるっちゅっはむっ」





ちゅ

ぽちゅ

ぞし

いっしょ

「はあっ♥ちゅ ちゅる  
びちゅっじゅるじゅる」  
（だめも...）  
（気持ちよくて舌が動いちゃう♥）



はあっ♡はあっ♡

はあっ♡はあっ♡

「はあっ♡はあっ♡  
びちやっ れるれるれる」



「ふっふっ ティファちゃんキスするの  
好きみたいだね」

「はあっ はあっ ちっ ちがう…  
あんたなんかと…」



い  
い

ほ  
よ

ほ  
よ

「ほら 舌だしてごらん  
キスしながらいっばい奥突いて  
あげる ほらっ」

「いやっ…だめえ そんなの…♡  
（あんなの凄すぎて  
おかしくなっちゃうよお♡）」



「ほらっ♡ 舌出してっ  
もう興奮してあげないよ？」

「はあっ はあっ だめっ  
だめなのにい…  
びちやっ♡ べろべろ」  
(もう…何も考えられない…)



んちゃっ♡

ちゅるる♡

「べるべる よしっ いい子だ  
いっばい突いてあげるからね」  
「んんん♡んちゅ あむっ  
はあっ ちゅるる じゅるっ  
んっ んっ んっ♡」

いっばい



「んんっ♡♡ ちゅる♡♡ちゅるるっ♡♡  
ちゅる♡♡ はあっ ちゅっ ちゅる」

ちゅる♡

ちゅるる♡

ちゅるる♡



「ちゅんっ  
いい感じだっ  
ちゅる ちゅっ じゅるんっ」

「はぁっ♡ちゅるる♡  
ぢゅる♡んんっ♡」  
(は 激しすぎっ)  
キスも…おちんちんも…  
濃すぎるとっ…♡♡)  
「はぁっ♡はぁっ♡はぁっ♡  
んうっ♡いっ…いっくっ♡」







「はあっ はあっ  
ティファちゃんのベロチー  
最高だよ」

はあっ  
はあっ  
はあっ

「はあっ♡はあっ♡はあっ♡」  
「はあっ 俺の唾液飲んで」  
「はあっ...はあっ♡♡はあっ♡♡」



「それにしてもティファちゃん  
ほんとに淫乱だね  
さっきキスされながら  
奥突かれてイってたでしょ」

「んっっ…はぁっ♡  
そんな…わ、わたし  
イってなんか…」

「まったく素直じゃないなあ  
まあそこが可愛いんだけど」

はあっ♡  
はあっ♡

「ああっ♡ たまんねえ 舌出してっ  
キヌしながら中出してやるっ」

「やあっ♡ だめえ、そんなの…♡」

「さっきみたいに気持ちよくなりたいですよ？」

俺ももうイきそうだから  
最後は思いっきり激しくしてやるよ  
ほら、「一緒にイこうぜ」

「はあっ♡ はあっ♡ だめっ♡  
そんなことされたら私…♡」



ぴちゅっ♡

「はあっ♡はあっ♡」

(ダメ…絶対ダメなのに…)

もう もう我慢できない

イきたい…イかされたいよお♡)

「はむっ♡ ぴちゅっ♡

ぺろぺろ ぴちゅっ♡ちゅっ♡」



ちゃー  
ぢゅるる

むぢゅっ♡  
ぢゅるっ♡

「んんんっ♡はあっ♡あむっ♡  
んちゅ♡ちゅる じゅるるっ♡  
んっんっんっ ♪あん♡ちゅっちゅる♡」  
（こんなの我慢できるわけないっ♡  
凄いい もうイっちやう♡）



パルッ

ちゅるる

んちゅっ♡  
はあっ♡  
はあっ♡

ブルッ

「はあっ はあっ  
たっ たまんねえぜ…んちゅっ  
ちゅる ちゅるる」

「はあっ♡パッ♡ごっく  
んちゅ♡ちゅるっ♡ちゅる♡

んんん♡♡♡  
(すっごい…こんなの…  
突かれる度にイっちゃうよお♡)

「ちゅるるる じゅるっ  
ぐああ 俺も、イキそうだしっ  
一番奥に出してやるっ…」

「んあああっ♡ちゅっ♡  
ひくっ♡わらしも…イク…♡  
んっちゅるるるる♡あむっ♡」

パッ  
パッ



ドクツ

ドクツ

あむっ♡

ふるるっ

んちゃー♡

はあっ♡  
はあっ♡  
はあっ♡

「んちゅ♡あむっ♡  
わたしもはあっ♡  
イクツ♡いつちやうっ♡  
はむっ♡ちゅる♡  
んっ♡」

「……うんっ♡」





んん...

きゅん♡  
きゅん♡

ちゅ♡

ちゅるる♡

はあ♡  
はあ♡

「はあ♡すげーちゅる♡  
ペロペロしながらの中出し  
半端ねえっ！」  
「はあ♡♡あま♡♡  
ちゅる♡♡ちゅる♡♡ごめい♡♡」

「はあ♡♡はむ♡♡ちゅる♡♡  
(キス止められない...  
しゅごい...♡♡)」

「んんっ♡んちゅ♡  
はあ♡♡はあ♡♡」  
(出てる...！熱いのが私の中に  
いっぱい来てるっ♡♡)



「はぁっ...♡はぁっ...♡んちゅっ♡  
べろ♡びちゅっ♡びちゅっ♡」  
（無理矢理中出しされたのに...  
舌絡ませるの止められない...♡  
こんな...こんな奴なのに...♡）

「はあっ はあっ  
すっげー良かったよ  
ティファちゃん」

「はあっ♥はあっ♥」

「ティファちゃんも  
随分気持ちよかったみたいだね」

「はあっ♥はあっ♥  
も…ダメ…♥」

「あーすげえいっぱい出ちゃった  
子宮に精子だされるの  
気持ちよかったです」

「そ、そんなわけ…♥」  
（子宮だなんて…  
でも…すっ）「かったあ…♥」

「へっっ…すっかり大人しくなったな…  
ほろ、足開いてまんこ見せるよ」

「はあっ はあっ…」  
（駄目なのに…もう抵抗できない…  
早く…欲しいっ…♡）

ほろっ

「ほろっ 入れて欲しいだろ？  
俺のチンコ欲しかったら  
おねだりしてみな」  
「そんなっ…そんなの…  
欲しくなんてない…」



「正直になれよ おおっ  
ティファちゃんのおクリトリス  
俺のチンコはコリコリしてやめ  
おまんこ」

「ひあっ♥んんん♥  
それ…ダメっ…あっ♥」

どクッ  
ムニムニ

「うわ、すっげえ愛液溢れてきた  
ほら、ティファちゃんのおまんこは  
俺のチンコが欲しいって泣いてるよ？」

「うっ…そんなあ…♥」

「ほら、入れて欲しいって言わないと  
おまんこ可哀想だよ？」



(もうだめえ早く欲しいのに…  
こんなのひどいよお…)

「ほ…欲しい…  
い、入れ…て…」

「んー？なんて言ったのかなあ  
声が小さくて聞こえなかったよ」

「ん…ん…ん…」

(うっひょい…でもきつ  
我慢なんてできない…！  
早くおまんこの中  
かき回されたいよお！)  
「い…入れて♥早くうっ♥」

「何をマ…ンコに入れて欲しいの？」

ムキムキ

はっ

はっ

ムキムキ



「私のっ おっおまんこの中に  
あなたのおちんちん入れてっ！」

「駄目駄目、ちゃんとお願いしなさい」

「うう はあっ♡ はあっ♡

わ、私のいやらしいおまんこの中に  
あなたの大きいおちんちん  
入れて下さい…♡  
お願い…もう我慢できないの…  
早く入れて…奥まで突いてえっ♡」

「へへへ よく言えたね  
そら」  
「優美だっ！」

ガクガク

ムキムキ

はあっ♡

ムキムキ



「おっっ 奥まで犯しまくっしやんぞー」

「あああっ♡すす♡いい♡  
気持ちいい♡もっ♡もっ♡お♡」  
（入れられただけでイっちゃった…  
こんなの初めて…♡）

んじゅっ

はっ♡

んじゅっ  
んじゅっ  
んじゅっ

ズググ





「ほらっ 入れられてるのー!!!」  
「しっかり見て」

「ああ…♥すい♥いい♥  
太いおちんちんが  
入ってる…奥まで届いて嬉しい♥」

ズン

じゅ

じゅ

「へへ ティファちゃんセックスしたくて  
たまらなかつたんだね  
こんなカラダしてちゃしょうがないよ」

「ちっ♥そんなあ♥そんな」…あんっ♥  
あつタメっ♥  
そっっ そっ「気持ちいいよお」♥

はっはっ♥

おんおん  
おんおん





「あんっ♡あんっ♡  
はあっ♡あっ♡あっ♡  
「んんなの…  
おかしくなさきさっ♡」

「んんなの…」

ズン

「んあああ♡  
そんなにされたら…  
私もう あっ♡きっ…ためえっ♡  
いく…！ っさっっっ♡」

ズン

じゅ

じゅ

はっはっ♡

んん  
んん  
んん

「おっこさんへん  
勝手にいっちゃん駄目だよ」

「な なんてえ 私もう少して...」

ごい

ごい

「いきたい...な...の...お...お...  
お...お...お...お...お...」  
「ぞ、それは...  
そんなの...な...」

もみ  
もみ

はあっ♥

はあっ♥



「駄目なの？俺は二二で止めちゃうてもいいんだよ？イキたくないの？」

「はあっ♡はあっ♡ためえ…止めないでひ…ひどい…♡」  
（イキたい…♡早くこのおちんちんでイキたいよお♡）

「ほご、ごうして欲しいかきや、ごう言わなまや」

「はあっ♡もももも…♡」  
「♡もももも…♡」

はあっ♡

もももも

はあっ♡



「何が中で良いの？」

「あつ あなたのの……せーし♡  
わ、私のい、一番奥に出してえ♡」

「おつおつ ティムママさまの子宮に  
俺の精子ぶちまけいさるじー  
おつおつおつ」

ズ

じゅ

じゅ

「あんっ♡あんっ♡  
すっすっ♡  
奥まで届いてるっ♡あっ♡あっ♡  
はあっ♡んんっ♡あっ♡あっ♡  
私…犯されてるの…  
気持ちいい…♡  
イっちゃっ♡」

ズ

じゅ  
んじゅ

はあっ♡

おつおつ  
おつおつ



「うああ すごい締め付けたあ」

「あんっ♡あんっ♡あんっ♡  
あっ♡あっ♡あっ♡あっ♡あっ♡」

「うう 子宮口が吸いついてくるよ  
欲しいんだねっ 俺の精液がっ」

ぬちゅ

「あああっ♡欲しい♡欲しい♡  
あなたの精液 私の子宮に  
いっぱいだしてえ♡」

「はあっ はあっ めっ  
もう限界だあっ 出すぞっ！」

「来てっ♡来てっ♡ああっ♡  
すっ♡いよお♡私もキキキ♡  
すっ♡いのうさ♡あんっ♡  
イク♡イキキ♡  
もう…もうダメえ♡はあっ♡」

ぬちゅ

ぢゅ

ぢゅ

ぢゅ  
ぢゅ

はあっ♡  
はあっ♡

おん  
おん





はあっ♡  
はあっ♡

びゅん  
びゅん

「おっぴん おっ  
おっぴんおっ

おっぴん  
おっぴん

「ああああっ♡  
中に…精子きてるぅ♡  
熱いのがキテ…んんん♡  
私…またイっちゃった♡」

びゅん  
びゅん

「おっぴんおっ  
おっぴんおっ  
おっぴんおっ  
おっぴんおっ」

びゅん

びゅん

「あーっ すっげえ出た  
ってかまだ出てくるわ…  
ティファちゃんのまんこ  
精子絞りとり過ぎ…」

「はあっ♡はあっ♡  
すっごい♡お腹の中が  
熱いので一杯…♡」

んんんんんん  
んんんんんん

きゅん  
きゅん♡

どしん  
どしん

「はあっ はあっ  
ニリや〜はさ〜出続けそうだ  
ちゃん〜全部  
子宮に出さないわ」  
「そんなあ♡もっ私の中  
入りきらないよお…」

んんんんんん

はっ♡  
はっ♡





「ふうっ スッキリした  
すっげえ良かったよ  
ティファちゃんも  
気持ちよかったよね？」

「あっ♡はあっ♡はあっ♡  
はい…すっ良かったです…」

ちゅぽんっ

はあ…♡  
はあ…♡

「はあっ♡そ、そんなこと…♡  
ううっ…凄…  
あんなにたくさん溢れてる…♡  
(中出して…凄…♡)」

「子宮まで俺の精液で犯されて  
イっちゃってたもんね  
中出し気持ちよかったですよ？」

んんっ

ゴポっ

「犯されてそんなにイキまくっちゃうなんてティファちゃんそんなセックスに飢えてたの？」

「えっ…ちがっ…♡  
そんな…っ…」

ぽぽっ

ゴポッ

「こんなエッチな体して  
持て余してたんだね」

「ちがっ…そんな…♡」

「じゃあ俺のチンポと  
ティファちゃんのまんこが  
相性良いんだね 良かった」

「うっ…そ、それは…♡」  
（でも…確かに妻かった…♡  
あんなイキかたしたら…  
もう忘れられないよお…♡）

はぁ…♡  
はぁ…♡





びん

はあ、

はあ、

ギョ

「あっ♡はあ...」

「くああティファちゃんの  
おっぱいすげえー!」

「はあっ はあっ ティファちゃんの  
乳まんこで射精させてもらおうぜ!」  
「えっ ちょっと...そんなのダメ...  
はあっ はあっ!」



「ああっ すごい弾力さ ふっふっふっ  
たまんねー」

「あっ♡そんなに おっぱい強く  
握まないで…♡」

「はあっ はあっ ほらっ  
俺の精液おねだりしてこらん」

「えっ… はあっ♡はあっ♡  
そんなの嫌…」

ズッ

ズッ

はっ♡

はっ♡



「ぶっかけより中出しのほうが  
良かった？ほら、ちゃんとおねだり  
しない？子宮に中しちゃうわー」

「あぁ♡だめ…  
はぁ♡はぁ♡だ、出して…  
あなたの精液 いっぱい出してえ♡」

「うぁぁっ…  
くっ…出してやねん…  
ほら…出してっ…  
っっち見てっ」

ズッ

はぁっ♡

ズッ



ズッ

はぁ♡

はぁ♡

ズッ

「ぐああ ティファちゃん  
エロすぎ……  
出る……出る……」

「はぁ♡はぁ♡♡す♡  
おっぱい熱い……♡  
来て……せいし出して♡」

「はぁ♡♡はぁ♡♡出してえ♡  
わたしの顔に……いっぱいかけて♡  
あなたの濃ゆくて凄いニオイの精液……  
舌にも……いっぱい出して……ぶっかけて♡」



「んんんんっ♡んんんんっ♡」  
（きたっ♡すっ♡いっ♡たくっ♡る...♡  
おっぱい乱暴にされて...♡  
んっ♡気持ちいいよなあ♡）



「はあっ♡はあっ♡すっぴい…  
顔に熱いのがいっぱい…♡」  
(すっぴいニオイ…♡臭いけど…  
エッチなニオイ…♡♡)

「ああっ すごいっぴいっ  
出ちゃった。  
ティファちゃんのおっぱい  
最高だね」

3回

3回

ごっくん





「ほら、口の中の精液ちゃんと飲み込まない」と

「え……んっ♡んっ♡……  
そんなあ……♡」

クハ

クハ  
クハ

んっ♡んっ♡

クハ



エロ

エロ

ゴクッ

「おっおっ  
おっ、口離さげらるる」

「んんっ♡うえ……♡  
んっ……♡  
ゴクっ♡」  
（うわすっ♡濃い……♡  
喉にひっかかって……  
喉まで犯されてるみたい……♡）



「んっ♡ はぁ♡ はぁ♡ はぁ♡ はぁ♡」

「どう ティファちゃん  
おれの精液おいしかった？」

「はぁ♡♡ はぁ♡♡  
すっごく濃くて臭くて…  
エッチな味…♡♡  
おいしかったです…♡♡」

「うんうん  
ほら、おいしいのまだ口の  
周りに残ってるよ」

は、は、♡  
♡

エロ

エロ



エロ

エロ

はぁっ♡

っっっ

「んんっ…はぁっ♡  
ぺるぺる んちゅ♡」  
（なんで 私こんなこと…  
でも もうこの味が  
癖になっちゃった…♡）

「あー エロいっ ティファちゃん  
俺の精液好きになっちゃった  
みたいだね また今度  
いっばい飲ませてあげるね」



「はあっ♥そんなあ…♥」

「あーそういうえばあの子の事だけで俺さっつたりしてないから」

「ん」

「でもティファちゃんセックス好きみたいだからまた犯してあげるね」

「そんなあ…♥ひびい…♥」

はあっ♥  
はあっ♥

エロ

エロ

「ほらっ ティンママちゃん 今日またっせり  
俺の精子中出ししてっやなっせり」

「アッ...アッ...アッ...アッ...アッ...アッ...アッ...アッ...アッ...アッ...」

「ひひひっ こんなエロいカラダして 俺のちんぽが  
恋しかっただろ」

「そんなわけ...お願い ダメっ...  
おちんちん入れないで...」

ぐわん





「へへ、ティファちゃんすっかり  
俺のチンポの奥だね 入れただけで  
とんとん溢れちゃうよ!」

「ちっちがっ……! あんたのなんて……  
入れられても 全然気持ちよくなんてないっ!  
んんっ……あっ♡ ま まだ動いちゃダメっ!」

ヌルッ



「ひひっ 今日も奥の奥まで犯しまくってやるぜー」

「あああっ♡だめえっ♡んっ♡んっ♡んっ♡  
そんなめ動かさないでえ♡はっ激しい…♡」

はぁ♡

「おらっ♡」が気持ちいいんだろっ  
ティファちゃんの弱点攻めまくってやるっ！

「あんっ♡あんっ♡そこ♡ダメっ♡  
あっ♡あっ♡んはっ♡あっ♡あっ♡あんっ♡」

ずちゅ

ずちゅ

「はあっ♡はあっ♡ あんっ♡  
そんな激しくされたら…私もう もうイッちゃっ♡  
はっ♡はっ♡ あんっ♡あぁあ♡」

「おいおい 気持よくないんじゃないの  
ティファちゃん嘘はよくないなあっ」

「んあぁあ♡♡♡♡♡  
ほんとは…凄いいい♡す♡いのお♡  
あなたのおちんちんで イクッ♡イッちやう♡  
もうダメ またイク…♡ あんっ♡あんっ♡あんっ♡」

ズ  
ズ





「はあっ♡きてるの 私の中心…子宮に  
精液すっ♡いれたいの…♡はあっ♡  
中出し気持ちいい♡」

ぞし♡  
ぞし♡

「あー今日もすげえ出しちゃった ティファちゃんとは  
何回セックスしても飽きないね また子作りしようね」

「♡子作りだなんて…♡はあっ♡はあっ♡はあっ♡ほんとに妊娠しなきゃならぬ♡」

どいっ  
どいっ

「はあっ♡すっこい濃い……♡  
この二オイ好き♡カラダへちゅんさっ♡  
なっちやった……♡はあっ♡はあっ♡」

ぞし♡  
ぞし♡

びゅるる

「あー今日もすげえ出しちゃった ティファちゃんとは  
何回セックスしても飽きないね またいっぱいかけてあげるね」

「んんっ♡コウっ♡おはっ♡この精子臭くておいしい……また頂戴♡」

「♡お尻上げ ……おっぱい ……♡」

「おっぱいあげるよ…おっぱいあげるよ…」

「おっぱいあげるよ…おっぱいあげるよ…」

「おっぱい♡おっぱい♡おっぱい♡おっぱい♡おっぱい♡」



おっぱい♡

おっぱい♡

おっぱい♡

おっぱい♡





「ちゅぱり……これ凄い……♥奥に当たる♥あんっ♥あんっ♥  
む胸も……おっぱいも強く揉んでえ……♥」

まじげっ

「……ぎゅ、そんなに動いた……」

「はあっ♥あんっ♥気持ちいい……♥あっ♥あっ♥あんっ♥あんっ♥」

ズレ

ズレ



「ちゅぱり…これ凄い…♥奥に当たる♥あんっ♥あんっ  
む胸も…おっぱいも強く揉んでえ…♥」

まじギョッ

ムッムッ

ズレ

ズン

「…ぎゅ、そんなに動いたよ、ムッムッ」

「はあっ♥あんっ♥気持ちいい…♥あっ♥あっ♥あんっ♥あんっ♥」



「ぐっっ ティンファちゃんの淫乱モード凄すぎる！  
そんなに騎乗位好きなの？」

はあ、

もむもむ

ゴダム  
ニ

ゴダム  
ニ

ズン

ズン

「んんん♡好き♡コレ好き♡はあ♡  
もっと♡もっと動いて♡奥まで突きあげてえ♡」  
「は、さへえ……」  
「……なんだ性獣だぜ……」

「ぐっっ ティンファちゃんの淫乱モード凄すぎる！  
そんなに騎乗位好きなの？」

はあ、

もむもむ

ゴダムニ

ゴダムニ

ズン

ズン

「んんん♡好き♡コレ好き♡はあ♡  
もっと♡♡もっと動いて♡♡奥まで突きあげてえ♡♡」  
「は、さへえ……」  
「……なんだ性獣だぜ……」



「くっ！ー負けてるらんねえーおらっしー！  
奥の奥まで突き上げてやるー犯してやるっ！ー」

「あああっ♡すっ♡すっ♡すっ♡すっ♡いっ♡いっ♡いっ♡いっ♡  
あんっ♡あんっ♡あっ♡あっ♡はあ♡はあ♡はあ♡  
奥すっ♡いっ♡♡き出された精子が  
子宮でたまたまたいっ♡いっ♡いっ♡いっ♡いっ♡よお♡」

はあっ

アッ♡

アッ♡

ズン

ゴ  
ミ  
ニ

グ  
ダ  
ニ

ズン

「くっ…負けてらんねえ…おらっ…  
奥の奥まで突き上げてやる…犯してやるっ…」

はあっ

「あああっ♡すっ♡すっ♡すっ♡いっ♡いっ♡いっ♡  
あんっ♡あんっ♡あっ♡はあ♡はあ♡はあ♡  
奥すっ♡いっ♡さっ♡き出された精子が  
子宮でたまたあいつっ♡いるよお♡」

アッ♡

アッ♡

グッ♡  
グッ♡

ズッ

ズッ



「おらっ…おらっ…あああすげえっ  
ティファちゃんもっ…俺のチンポもっ…  
俺のチンポ好きっ…正直に言っ…」

はぁっ  
はぁっ

「んんっ♡そんな…♡すすすっ♡  
あなたのおちんちん凄いやっ♡はぁっ♡あんっ♡  
好き…♡」

ズレ  
ミ  
グ  
ズ  
ミ

「おらっ…おらっ…あああすげえっ  
ティファちゃん…っ…俺のチンポをっ…  
俺のチンポ好きっ…正直に言っ…」

はぁっ  
はぁっ

「んんっ♡そんな…♡すすすっ♡  
あなたのおちんちん凄いやっ♡はぁっ♡あんっ♡  
好き…♡」

ムニャ  
ムニャ

ズレ

ググ  
ズレ





「あーっ……さっさとっ！褒美に乳首苛めてやる……  
おっはっはっ！も子宮口も犯されていき狂っちゃまえっ！」

はあっ

もむもむ

ぶっぶっ

ずっずっ

ずっずっ

ずっずっ

ずっずっ

「はあああっ！♡♡♡……っはっはっ！♡♡♡……S……無中無言でっ♡♡♡  
んっ♡♡♡んっ♡♡♡んっ♡♡♡んっ♡♡♡んっ♡♡♡んっ♡♡♡んっ♡♡♡んっ♡♡♡  
そんなっ！おっはっはっ！おっはっはっ！おっはっはっ！おっはっはっ！おっはっはっ！」

「うああっ すぐえ腰の動き……  
もうっ出るっ出ちまうっ ほらっ二に欲しいっ？  
おれの精子ど二に欲しいか言つてしらんっ……」

はあっ  
はあっ  
はあっ

「中に♡私の一番奥でイちゃっ♡子宮口で射精してえ♡」

「はあっはあっ いいの？好きな男いるんじやないの？」

「んんっ♡そんな…私もうっ♡あなたのおちんちん大好きだからあ♡」

ずりっ  
いっ

ぐちゃっ

ぐちゃっ

ずりっ  
りっ

「うああっ 上げえ腰の動き……  
もうっ出るっ出ちまうっ ほらっ二に欲しいっ？  
おれの精子ど二に欲しいか言つてしらんっ……」

はあっ  
はあっ  
はあっ

「中に♡私の一番奥でイちゃっ♡子宮口で射精してえ♡」

「はあっはあっ いいの？好きな男いるんじやないの？」

「んんっ♡そんな…私もうっ♡あなたのおちんちん大好きだからあ♡」

ゴミッ  
ゴミッ  
びびっ  
びびっ

ずりっ  
ずりっ

ずりっ  
ずりっ





「はあっ♡はあっ♡凄いつ♡私の子宮…あなたの精子で  
真っ白に汚されちゃったが♡こんな私の妻すぎて…  
もう戻れなくなっちゃうよ♡はあっ♡はあっ♡」

「あぁあっ♡ 子宮口が吸い付いてきてしつ搾り取られる…  
さっしっしっ♡ ティンファちゃんもう出たからっしっしっしっ…」

「はあっ♡はあっ♡はあっ♡しめんなさい♡腰止まらない…  
あんっ♡はあっ♡はあっ♡はあっ♡はあっ♡」

どしどし



「はあっ♡はあっ♡凄いつ♡私の子宮…あなたの精子で  
真っ白に汚されちゃったが♡こんな私の妻すぎて…  
もう戻れなくなっちゃうよ♡はあっ♡はあっ♡」

「あぁあっ♡ 子宮口が吸い付いてきてしつ搾り取られる…  
ぎゅっ♡ ティンファちゃんもう出たからっ♡うっ♡うっ♡……」

「はあっ♡♡はあっ♡♡しめんなさい♡腰止まらない…  
あんっ♡♡はあっ♡♡はあっ♡♡はあっ♡♡」





「あゝ凄いやかったよティファちゃん  
どう？俺に犯されて良かった？」

ははっ♡  
ははっ♡

どしどし

「そんな…犯すたなんて…♡  
…はいい♡良かったです♡犯してくれて…♡」

「うんうん また子作りセックスしようね」

「はあっ♡はい…♡またセックスしてね♡♡♡♡♡」

「あゝ凄いやかったよティファちゃん  
どうう？俺に犯されて良かった？」

はは  
はは  
♡♡

アッ♡  
アッ♡

どし  
どし

「そんな…犯すたなんて…♡  
…はいい♡良かったです♡犯してくれて…♡」

「うんうん また子作りセックスしようね」

「はあ♡♡はいい♡♡またセックスしてオオオ♡♡♡♡」

「この事彼氏にバラされたくないから  
またセックスしようね ティファちゃん」

「ううっ… 絶対っ… 許さない……」

そう言いながら、その後彼女からは何のお咎めも無かった。  
ポコポコにされるかと思ってたんだけど…。

そして俺は今日もティファちゃんとセックスしに行った。